山のある風景

九重山は、九州本島最高峰の中岳や、久住山・大船山を主峰とし、三俣山、星生山、黒岳などの九州の屋根と呼ばれる山群の総称であり、山間の里には玖珠十湯がある。

九重山

画（墨淡彩）
17分会　姉川良男

新春スター訪問

凄味のある役者に

NHK大河ドラマに燃える

風間杜夫さん

映画「蒲田行進曲」の銀ちゃんで〝男の華〟を見事に演じ、テレビ「スチュワーデス物語」では絵に描いたような貴公子ぶりを見せてくれた風間杜夫。人気、好感度のどちらも目下、ナンバーワンの俳優である。

風間杜夫の芸歴は古い。小学生の頃、母親のすすめで児童劇団に所属。「子ども心に、演ずることの面白さを感じていたみたいです」映画の子役として活躍、少年雑誌〝冒険王〟の表紙モデルも務めた。

中学生になると児童劇団を退団したが、大学時代のサークル活動で再び演劇の楽しさのトリコとなった。卒業後も就職せず舞台俳優の道を選ぶ。「当時、もちろん舞台じゃ食べられませんから、アルバイトをやって年に三〜四回、公演をうつ生活が続いていました。こういうと〝大変でしたねぇ…〟なんていわれるんだけど、本人は結構そういう状況を楽しんでましたよ」。アルバイトは、築地市場での野菜運び、ラーメン屋の出前持ちなど。そして〝仮面ライダー〟で縫いぐるみの中に入り、デパートの屋上で汗びっしょりになったこともあったそうだ。

二十五歳の時、〝舞台一筋の生活〟に転機が訪れた。「役者をやるなら舞台だ！と思い込んでいたのが、どうせ演ずるのなら、あらゆる機会に、一人でも多くの人に見てもらいたいと考えるようになって」現在の風間杜夫が誕生した。

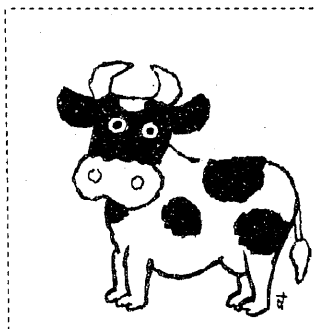
「当時から僕の役どころは、どちらかというと気が弱かったり、ウジウジしたり、今までの〝男はこうあるべきだ〟的なヒーローとは違ってたんで、それが逆に新鮮で身近に映ったのかも知れませんね。僕自身、そういう部分、ありますし」と人気の理由の一端をクールに自己分析してくれた。「演技者としてあこがれるのは、毒のある役者です。善人を演じられると同時に、ふとした瞬間、凄味を出せるようになりたい。緒方拳さんなんて好きですね」役柄の幅をいかに広げるかがこれからの課題だ。

一九八五年はNHKの大河ドラマ〝春の波濤〟で主役の一人、福沢桃介を演ずる。桃介は川上貞奴の初恋の人。先を読む眼をもった日本の近代化を象徴するような人物でもある。「いままで僕が演じてきたのとは一八〇度違う、すべてに合理的で理性で割り切るタイプ。やりがいがあります」。

大河ドラマは一年間の長丁場だけに、体力づくりのためスポーツクラブへも通い始めた。ナイーブな風貌の底に強じんさを秘めた風間杜夫。年男の一九八五年は、彼の新しい魅力と出会えるだろう。

× ×

歩みは遅いけど…



今年はうし年　オラの出番です

ことしは牛（丑）年、おいらの出番。本当は十二支の最初はおいらのはずだったんだ。おいら、足が遅いから誰よりも早く歩きだしたんだ。ところが、神様の前まできたら、ねずみのやつ、おいらの背中からピョンとびおりて走っていったから、一番がねずみということになった。悔しかったのなんのって、モウ！　ねず公は人間に害を及ぼしてばかりいるけど、おいらは違うう。

「エエーイ！（とばかりに大見得を切って）我こそは最初の大型家畜なり。人類の生活に大きな役割を果たしたのも我なり！」。つい力んじゃったけど、最も古い家畜なんだ。今日でもインド、東南アジア、アフリカでおいらたちは聖牛とされているんだ。

おいらたちうしは、乳用、肉用、役用に区別されていて、それぞれの分野で活躍している。ホルスタインは体重九百〜一千キログラムあって、一頭が一年に出す乳の量は牛乳びんにして十万本分。どう、すごいだろう。

日本の牛乳の大部分がホルスタインなんだ。牛乳はバター、チーズのほかカルピス、ヨーグルト、アイスクリームなどつくれるし、皮は皮革に、脂肪はヘッドとして料理に、骨は飼料や肥料、毛はフェルトに、内臓からはホルモン剤がとれ、糞は燃料や肥料にと、おいらたちの体は捨てるところないんだ。

それになんたって、医学の進歩に貢献した輝かしい歴史を持っている。何かって？　種痘だよ。ジェンナーって医者が牛痘を人間の体に植え付けることで天然痘予防の薬を発見した話は有名だよ。

おいらたちの歩みはけっして速くはないけれど、ギュウ、ギュウと力強く歩いている。ことしは世の中もみなさんも、着実な一歩を！

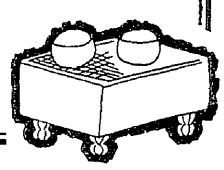
1月のことよみ

○…睦月（むつき）。ものみなむつみあり年の初め。三が日はまたたく間に過ぎて、四日は官庁御用始め。翌五日は小寒。七日の七草には新春の青菜で七草ガユを。十五日の成人の日には、今年は男子八十八万人、女子八十四万人の新成人が祝福を受けます。二十日は大寒で、寒さはこれからが峠。

○…日本の冬のお天気に大きな影響を及ぼす上空の偏西風の流れから見て、中部シベリアのタイミール半島付近に低気圧があるため、北極圏の寒気が南下しにくい状況になっています。このことから、一月は全国的に暖かい日が多く、時折り、強い季節風が吹き出しても、寒さは長続きしないといいます。

○…今年は国連が定めた「国際青年の年」。国連が「人民間の平和、相互の尊重及び理解の理念を青少年の間に推進する宣言」を発表した二十周年を記念するもので、テーマは「参加・開発・平和」です。さまざまな行事が国内外で行われますが、便乗して青年の右傾化を図る動きもあり、要注意です。

新春囲碁大会



三池労組囲碁愛好会主催の新春囲碁大会をひらきます。会員外も遠慮なくご参加ください。

とき　一月十三日(日)
　　午前九時
ところ　組合事務所
昼食、賞品を準備しています。

おもしろまじめな牛百科

日本に四七〇万頭

牛は哺乳類偶蹄目ウシ科ウシ亜科に属する。肉用、乳用、乳肉兼用、役用、野生種等に分けられるが、日本には肉用二百五十七万二千頭、乳用二百十二万頭が飼われている（農林水産省調べ、一九八四年二月一日現在）。なお、日本で牛が飼われるようになったのは、大和民族の出現以後というから比較的に新しい。

アルタミラ壁画

牛が人間にとって太古から身近な存在であったことを証明するものに、旧石器時代の洞窟壁画がある。なかでも十九世紀末にスペインで発見されたアルタミラの壁画は、一連の壁画発見のきっかけとなっただけでなく、絵画の優秀性でもきわ立っている。多彩または単彩で、猪、鹿、馬も描かれているが野牛が最も多い。

血を吸い組織固め

紀元前七七〇〜二二一年の中国は春秋戦国時代と呼ばれ、いくつもの都市国家が激しく争った。そんな中で諸侯が同盟を結ぶときは、牛や羊を神に供え、盟主が牛の耳を裂く。ほかの者はそこの血をすすって組織への忠誠を誓ったという。いまも使われる「牛耳る（ぎゅうじる）」という言葉は、この故事が語源である。

源氏物語にも登場

わが国で牛が文学作品に初登場するのは、平安前期に編集された仏教説話集の『日本霊異記』で子供の物を盗んだために牛となった親の話などいくつかある。

つづいて紫式部の『源氏物語』で、清少納言の『枕草子』には、金銀の装飾を施した華美な牛車（ぎっしゃ）が客を乗せて白馬の儀式を見に行くさまが描かれている。

磁石を飲んでいる

牧場で放牧してある牛は、胃の中に磁石を飲みこまされている。牛は胃が四つあるが、人間が特殊なパイプを使って第二の胃に入れている。それは、牛は金物が大好きで、地面に落ちている鉄くずも食べてしまうため。飲みこんだものが身体を回って消化器に穴をあけないよう、一カ所にまとめておく必要があるのだ。

丑年の主な出来事

十二年前の一九七三年（昭和四十八年）第一次石油危機が起こり、韓国では金大中事件があった。三池では、十一・九大災害の遺族、被災者が民事訴訟を起こした。